

## 人種差別の複雑な背景と行方

今日、8月28日はキング博士の歴史に残る名演説から57周年にあたります。そんな今、黒人のジョージ・フロイド氏が白人警官に首を地面に押しつけられて死亡、つい先日はやはり黒人が警官に後ろから銃撃され人種差別反対の運動はアメリカ全土に広がり、11月の大統領選挙の主要論点の一つになっています。



キング博士の生家

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア (Martin Luther King, Jr., 1929~1968年) はキング牧師の名で知られ、アフリカ系アメリカ人公民権運動の指導者でした。

1862年、リンカーン大統領による奴隷解放宣言により、アメリカ合衆国での奴隷制は廃止され、アフリカ系アメリカ人は奴隷のくびきからは脱しました。しかし奴隷制度からの解放は直ちに人種差別の撤廃を意

味するものではなく、その後も学校やトイレ、プールなどの公共施設やバスなどの公共交通などにおいては、白人と非白人等の区別に基づき、異なる施設を用いることが容認されたままになっていました。

1963年8月28日に行われたワシントン大行進の際、リンカーン記念堂の前での“*I Have a Dream*” (私には夢がある) で始まるキング博士の演説 (写真下) は、人種差別の撤廃と各人種の協和という高邁な理想を、簡潔な文体と平易な言葉で訴え広く共感を呼びました。演説は即興で行われたといわれていますが、その内容は高く評価され、ケネディ大統領の就任演説と並び20世紀のアメリカを代表する演説として有名です。

以下は、わかり易く私が最も気に入った一節で英語の授業でも引用する部分です。

I have a dream that one day on the red hills of Georgia, the sons of former slaves and the sons of former slave owners will be able to sit down together at the table of brotherhood.

(私には夢がある。ジョージアの赤色の丘の上で、かつての奴隷の子孫とかつての奴隷を所有した者の子孫が同胞として同じテーブルにつく日が来るという夢が)

1964年にノーベル平和賞を受賞しましたが68年には暗殺されました。現在、氏の誕生日はアメリカ合衆国の国民の祝日となっています。こんな長い歴史や社会背景がありながらいつまでも続く差別の問題は、アメリカ人なければ分からない複雑な歴史や背景があるように思えます。他国の私たち日本人が安易に評論を加えるのは難しいと思うのです。卑近なエピソードの紹介です。



ある適齢期の女性がアメリカに留学しました。ある日、母親は娘からのメールを受信しました。「お母さん！ワタシ素敵なアメリカ人と仲良くなったの。結婚したいんだけど・・・」。母親は返信しました。「いいんじゃない、アメリカ人だったら。でも黒人じゃないでしょうね」——ここに彼女の人種観が表れています。私が知る黒人の中には能力も人格も優れた素晴らしい男性もいます。母親は、若いとき自分が憧れたこともある碧眼でブロンドの白人を心に描いたのかもしれない。皆様はどう考えられますか？